

■■■ 2015年度KFC総会報告 ■■■

5月23日にKFCの2015年度総会を開催しました。

総会に先だち、定例となっている全体学習会を今年は、「KFCの子どもの学習支援」というタイトルで子ども担当スタッフである志岐が発表者となり開きました。

KFCの外国にルーツを持つ子ども支援により高校進学の際や学校、社会への適応のハードルが進学データや子どもの声から低くなっていることをあらためて確認できた学習会でした。しかしせっかく高校に進学した子どもの退学率が高いことや大学への進学率が低いこと、就職後の定着率が低いといった課題も事例で明らかにされ、日本で暮らす外国にルーツを持つ子どもの教育課題の多さ、大きさもあらためて実感しました。

日本で教育を受ける外国にルーツを持つ子どものためにKFCが何をすべきなのか、何ができるのかを考えるためには、子どもらが暮らす地域や学校、とりまく格差や貧困といった社会状況の深い理解が必要と考えます。またKFCが持つ大学や研究者、教育委員会や地域団体、教員やボランティアといった個々を繋ぎ取り組むための仕組みも必要となっています。一朝一夕で進まないことですが来年度から兵庫県教育委員会が外国から転入してきた外国人生徒の高校特別入試枠設置に向けての動きも進めています。

全国でも有数規模の支援を進めているKFCが果たせる役割は、まだ沢山あると思いますので繋がりを深め子どものために役立つ仕事を進めたいと思います。

総会は、例年より正会員の出席も多く、オブザーバー賛助会員も多く出席し組織としての発展を感じました。

定款に則り、総会が順次進められ議事として2014年度事業報告及び収支決算・監査報告、役員改選、2015年度事業計画及び収支予算案が承認されました。

事業報告としてはKFCが、排除や純化という形でナショナリズム、レイシズムが世界を席卷する状況のなかで多様な言語、多様な文化、多様な背景を持つ人が集い働く場として、人の共生と成長を願い尽力した1年であったと総括しました。

財政的には、子ども部門、グループホームや小規模多機能型居宅介護の事業の頑張りもあり法人として安定した運営となりましたが、2015年度の介護保険制度の改定により大幅な減収が見込まれることから厳しい予算計画となることを確認しました。

事業計画としては、格差がひろがり貧困が蔓延しKFCがかかわる人たちの状況がより厳しくなるなかで、周辺化される人の人権擁護を根底に据えた事業を進めていくこと、そのことが関わる人のやさしさ、豊かさ、楽しみに繋がることのできる組織をめざすことを確認しました。

最後に総会ではない話になりますがKFCが関わる2人の中学生の家庭の状況が厳しくなり、保護者不在や経済的苦境により子どもの不登校や食事がとれないといった問題が起きました。子どもらとの関わりのなかで二人ともが手を頭の横でまわし「俺アホやから・・・」と、自分たちにとって学校は居場所にならず将来の可能性もないという話をしました。

その時の子どもの悲しそうな目を見ると、10代の前半で可能性を閉ざそうとしている環境は子どもにとって暴力をふるっているのと同じではないかと感じました。

KFCの力は小さいものですが、子どもにふりかかる「暴力」を止める力を少しでも持ちたいと考えます。
(理事長 金 宣 吉)

◆ネパール地震支援活動報告会

2015年6月20日(土)14:00から、KFC学習スペースで上記報告会を行いました。報告して下さったのはラクパ・シェルパさん。2015年4月25日にネパール大地震が発生した後、5月5日から31日までネパールに滞在され、各地で支援活動をされた様子を写真をまじえてご報告下さいました。

シェルパさんはネパール出身の登山ガイドで、ヒマラヤトレッキングツアーを専門とする旅行会社を運

営されています。登山ガイドとしてエベレスト登頂も4度されているそうです。22年前から日本支社のお仕事で、ネパールと日本を行ったり来たりされていましたが、2013年よりご家族（奥様と3人の子どもさん）で日本に住まれるようになり、2014年5月から神戸市兵庫区に在住されています。3人の子どもさんがKFCの学習支援に来られているご縁で、本日の講師をお引き受けいただきました。

震災被害や支援の概況としては、ネパール政府の統治機構自体が脆弱で、災害対応にも不慣れな為、震災直後から各国の人的・物的支援があったにも関わらず、被災地の住民に届かず、死者・負傷者が増えてしまったそうです。一例として、25日の12時地震発生後、16時には隣国インドから1トンの食糧支援があったそうですが、分配・運搬作業が機能せず、1週間倉庫に放置され、結局腐敗して廃棄処分になったとのことです。

また、首都カトマンズは郡部に比べ高層建築も多く、人口密度も高い為、建物の倒壊や死者は多かったのですが、富裕層が多いことや交通手段が確保しやすいことから、復興は比較的順調に進むのではないかとのことです。それよりも、道路も空港も整備されておらず、徒歩でしか辿り着けない山岳地帯の方が事態は深刻で、土砂崩れで村落全てが消滅してしまい、人も段々畑も家も埋まったまま、その日、別の所で仕事等をしていた人達が、帰るところを失い、とりあえず避難所（養鶏所を転用）やテント（竹の梁にブルーシートをかけた物）で過ごしている状態が続いているそうです。

シェルパさんは5月5日にカトマンズに入られた後、山岳地域のポーターさん（登山者の荷物運搬を担う方達）他、知人・縁者に呼びかけてレスキューチームを結成し、山岳地帯のラシュワ、ゴルカ（1400世帯中、1200世帯の住居が全壊）、グデル（シェルパさんの出身地で、カトマンズから車で15時間、そこから更に徒歩で3日間）を周られ、米や建材（トタン）等の支援物資を届ける活動をされました。その際、KFCの募金活動で用意したLEDランタンも届けて下さり、現地の方々に喜んでいただいたそうです。

今後の復興について、シェルパさんからは、「地震の数年前から、高山・山岳地帯の生活・経済面が改善される方法について考えていた。山岳地帯では自給用に段々畑でとうもろこしや豆・芋を栽培し、収穫は1年に1回のみ。収穫物を住居1階（2階が住まい）に貯蔵して冬季をしのぐ、という生活を続けてきた。現金収入は中東や周辺国への出稼ぎ、民間軍事会社への傭兵、登山客のポーターという構造。山岳地帯は昔から生活が大変だったが、今回の震災で一層大変になってしまった。山の木々や植物をむやみに刈ったらいけないが、例えば、高山地域に自生している植物の内、漢方薬の原材料になるような物も豊富にあるので、そういう物を、現地の人管理して、現金収入を得ていくようなプロジェクトも立ち上げられたら良いなと思っている」「山岳部・農村部では今季の農作物の収穫が期待できないのでこの冬の生活が立ち行かないだろう。食糧、寒さ対策としての毛布等の支援は引き続き必要。ネパールはお金も技術も隣国等の支援頼みなので、政府も外国への支援要請は積極的に行っている様子」「これまで高層建築でも建築基準が守られていなかったり、世界遺産も全くメンテナンスされていなかったり等、政府も市民も杜撰だった面が、今回の震災を機に改善されたら良いと思う」とのことでした。

参加者8名の内、甲南高校在学中の2名からは「先日、元町で募金活動を行い、集まった60万円をネパールの団体に送り、現地で米や毛布やトタンを購入してもらい、農村部に届ける活動を行った。今後も校内での募金活動などを続けていきたい」との発言がありました。

他、限られた紙面ではお伝えできないくらい様々な情報を、わかりやすくご報告いただきました。お忙しい中、お時間を割いて下さったシェルパさん、そしてご参加いただいた皆さんに心から御礼申し上げます。ありがとうございました。KFCでは引き続きネパール地震支援の募金活動を実施しています。ご協力いただける方は下記口座へのご支援をよろしくお願い申し上げます。（吉本 直子）

【郵便振替】00990-4-18945 特定非営利活動法人 神戸定住外国人支援センター

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆「現代日本における国際結婚—中日国際結婚を中心に」に参加して

6月12日(土)に神戸大学の胡源源さんより「現代日本における国際結婚—中日国際結婚を中心に」とい

うお話がありました。内容は次のようでした。

①現代日本における国際結婚の数的な推移とその背景

1960年代末の「戦争花嫁」。「ムラの国際結婚」。国際結婚が珍しかった時代の「華やかな国際結婚」。「ムラの花嫁」としてフィリピン人女性から中国人女性の多い時代へ。「なでしこ姫」という時代に区分される。その流れに沿って、相手の性別と国籍との推移を概観。政府のビザ発給の方針転換や社会状況の変化がある。

②中日国際結婚の現状と社会的背景

日本人男性と中国人女性のペアが大多数。中間層に多い恋愛による場合と、低所得者層に多い仲介業者による場合とがある。日本側の要因として、農村部の嫁不足、階層化された都市部での低所得者の結婚難、また高齢独身男性の増加の3点が大きな要因である。中国側の要因として自由と社会的経済的上昇の手段として国際結婚を選ぶ人が多いといった事情。

③個別の事例

うまくいくケースもあれば、慣習や言語などでうまくいかないケースも多い。ただし、不利な状況におかれていても、経済的な自立心も強く、社会的上昇をめざしてたくましく生きていくと、評価・考察がありました。

今回の研修に参加して、一口に国際結婚といっても様々な形があるものだと再認識しました。また、社会情勢の変化や政策などの少しの方針変更で、実に多くの人々の人生が変わるのだとも、改めて学びました。

私は現在、夜間中学校に勤務していますが、ここには義務教育を終了していない方々が学んでおられます。外国籍の方も多く、技能士として来日された方もあれば、国際結婚の方、また在日の外国籍の方との結婚で来日なされた方もあります。

最も危惧するのは仲介（斡旋）業者の存在です。結婚にしろ仕事にしろ似た構造があります。国際結婚が見方を変えれば貧困から抜け出す「救いの道」であるかもしれませんが、一方で言葉巧みに勧められてお金をだまし取られているという見方もできます。（今回の話でも業者にはかなり高額なお金を支払っているようで驚きました。）これらの国際結婚が経済、家庭、地域などの脆弱な基盤によるものなら、そのしわ寄せは生まれくる新しい世代に行くかもしれません。日本人同士の結婚も近年は離婚率増加など似た傾向ですが、国際結婚となるとなおさらではと思います。今回は「国際結婚した後、シングルマザーとなった人たちは、弱いばかりではなく、実はたくましく社会的上昇を目指して生き抜いている自立した人」という一つの肯定的な見方を教えていただきました。しかし子どもたちの環境のことを考えると、自分には複雑な思いが残りました。

私たちに何ができるか。突きつけられた難しい課題だと思いました。（井口 幸治）

◆生活日本語クラス（火曜）活動報告

今年度4月より、月4回火曜午前10：00～12：00の2時間、地域日本語教室を実施しています。学習者5～7名（ベトナム・韓国・タイ・フィリピンなど）支援者5～6名が参加しています。

今までは、学習者・支援者のマンツーマンの個人レッスン形式でしたので、同じ時間帯で学習していても、担当以外の支援者・学習者同士は、お互い挨拶する程度でした。そこで、「学習者・支援者同士の交流の輪を広げることによって、より参加したくなる教室になるのでは!？」という考えの基に、グループトークを取り入れることになりました。基本パターンは、前半50分のグループトーク・後半1時間は今まで通りの個別学習としましたが、4月当初の段階では、参加人数・学習者の日本語レベルなどは、ほとんど把握できていませんでした。「ま、来た人の自己紹介から始めましょうか」というゆるい感じでのスタートでした。

毎回、「グループトークしましょう」だけで話すのは難しいと思いましたので、「きょうのわだい」を提示しています。「すきなもの」「すんでいるところ・よくいくところ」「いったのしかったところ」「こわかったこと」などです。できるだけ差し障りがなく、気軽に話せるものにしたいのですが、今後どう続けていくかが課題です。

さらに、ボランティア活動の性質上、その時にならないと参加メンバーがはっきりしません。後半の個別学習ペアの組み合わせでは、支援者学習者の数がそろつかどうか、ペアの学習者（支援者）が欠席だった時はどう組み合わせを変更するかなどで気を遣います。

開始から3ヶ月たって、なんとなくメンバーや会の流れも定まってきました。参加者が女性ばかりだからでしょうか、話しやすい雰囲気、料理や子どもの話題で盛り上がることもしばしばです。学習者の皆さんは、日本語を学びたいと努力している人たちですから、是非、日本文化やことについても理解を深め、日常生活を豊かにしてほしいと願っています。そして、学習者が日本語で話す場を提供するという目的に向けて、さらに努力したいと思います。（香田 ちづる）

■■■ KFC 外国にルーツを持つ子どもの学習支援 ■■■

◆インターンシップに参加して

はじめまして。私は兵庫県立大学3回生の服部奈都子です。大学では、語学や他国の文化理解を中心に勉強しています。そして、今年4月からインターンシップ活動でコーディネーターとして、週に一度、KFCの子ども学習支援活動に参加しています。KFCで働いているみなさんに優しく接していただき、また、子どもたちとも毎週楽しく勉強しています。みんな笑顔が本当に素敵です。

私は、活動に参加して間もないですが、毎週来るたび新しい発見・経験の連続です。例えば、初めましての挨拶のときの「先生は日本人ですか？」という質問。本当に驚きました。今まで、どれだけ狭い日本文化の中で生きてきたのかを実感させられた瞬間でした。学習センターには、多くの国籍の子どもたちが勉強にやってきます。私になに人でも、何歳でも、どんな人間でも偏見を持たず、むしろ興味を持って話しかけてくれる子どもたちの反応はとても嬉しかったです。そして、知らず知らずのうちに、多文化理解を深めることができる環境が与えられていることが、素晴らしいと思いました。私自身の考え方も活動を通して大きく変化し、今まで当たり前だと思っていた日本文化を、客観的に見て考え直す、とてもいい機会になっています。

そして、私は彼らをととても尊敬しています。その理由は、ほとんどの生徒が毎週欠かさずセンターへ足を運ぶということです。同じことを継続するのは、簡単に見えてとても難しいことだと思います。もし、勉強することが一番の目的でなかったとしても、センターに来ることで学べることは他にもたくさんあり、彼らの人間性を高めることにも、大きな役割を担っていると思います。

以前、私は、ゴールデンウィーク期間中に行われた、KFC農園での農作業とバーベキューに参加しました。農園では雑草を抜き、肥料をまき、苗を植えて、水を撒くところまでみんなで協力して働きました。まだ夏には遠いにも関わらず、その日はカンカン照りの絶好のバーベキュー日和で、汗だくになりながら作業をし、バーベキューもおなかいっぱい楽しみました。ご近所に住む農家の方が、道具や手洗い場を貸してくださって、子どもたちも真剣に作業しつつ、時にはふざけつつ、楽しい時間を過ごせたのではないかと思います。農園には、さやえんどうが育っていて、収穫班になった子たちはおいしいおいしいと、食べながら収穫していました。近くには公園があったので、みんなでふえおにやバドミントンをして全力で遊びました。小学生の底なしの体力に、普段まったく運動をしなくなっていた私はお手上げ状態でしたが、一緒になって走りまわって楽しかったです。外に出て思いっきり汗をかいて遊ぶこともいいなと思いました。

インターンシップに参加し多文化社会を肌身で経験することで、私自身の考え方や感じ方が変わっていくことを実感しています。これからも子どもたちと学び、また、子どもたちから多くのことを学べるように、一緒に頑張っていきたいと思います。（服部 奈都子）

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆神戸祭りがもたらした楽しさ

春と夏の移り変わりの時期に、年度行事の神戸祭りを迎えました。当日は晴れわたり、とても良い天気でした。三宮駅前には人がたくさん集まっています、皆さんうれしそうな顔で神戸祭りの開幕を待っていました。

KFCの帰国者ヤング隊が今年度、神戸祭りに参加するのは3回目でした。出演者たちは強い責任感と誇りをもち、花舞台での出演を楽しみにしていました。皆さん、今年の神戸祭りに貢献できるように全力で頑張りました。

中国のヤングは単なる娯楽活動だけではなく、身体を鍛える良い方法でもあります。私たちは平均年齢65歳以上での年寄り、年長者は80歳近くです。多くの人々の身体がすでに丈夫ではなくなり、普段、痛みが出ることはよくあることです。子どもたちは結婚して独立し、親の面倒を見る時間が少なく、特に日本では生活のリズムが速いです。年配の私たちは開明的な考えを持たなければなりません。自分自身は生活の質を高め、人生の残りの時間で良い生活できるようにします。

3年前、KFC及び他の関与機関のおかげで私たちはヤング隊を立ち上げました。皆さんがヤング隊のことを話すとき、いつも胸がいっぱいで感無量になります。皆さんは嬉しそうな顔でこのようなことを語りました。「ヤングであれ広場踊りであれ、踊って以来、体の感覚がずいぶん変わりました。以前、歩くことすら困難でした。身体がしんどくだったです。今は、体調が以前よりずいぶん改善され、気持ちも明るくなりました」。「以前は、うっとうしい毎日を過ごしていました。人とあまりコミュニケーションをとっていませんでした。毎日煩わしいことばかり考えたので身体の調子が徐々に悪くなりました。3年間のイベント参加を通して、自分の考え方も情緒も改善され、生まれ変わりました。視野が広げられ、より一層正確に人生に向き合えるようになりました」。このように、すべての参加者にそれぞれ収穫がありました。今後、年配の私たちはきっと健康で快適な気持ちで生きられます。

この3年間で、出演形式とパフォーマンスはかなり進歩しました。これは一生懸命に練習した結果です。今年はヤングの出演だけではなく、広場踊りでも出演しました。そして、観衆の方たちに評価していただきました。KFCと友人の支援に感謝します。年配の私たちが勉強でき、娯楽も楽しめ、晩年を安心して過ごせるようにしてくれていることに。(李 賀)

◆現実の生活

皆さんの今の日本での生活はいかがでしょう。去年消費税も上がり、皆さんの財布の紐も更に絞まっているのではないのでしょうか。買い物をする際にも時にはいくつかの店を歩きまわり、値段を見比べ買ったりしていませんか。閉店前の割引食品を狙って買い物に出掛ける時ありませんか。

今の円安で更に節約を工夫しなければいけないのではないのでしょうか。

大阪の業者が毎月2回家の近くで日用品の特売をしています。中古品も新品もありますが、中でも子ども用品がとても人気で、買い物客は一日中後を絶ちません。

特売イベントは雨天の場合は中止になり、他の日に延期になります。

皆さんも中国に帰る際には、きっとたくさんのお土産を買ってください。もし値段が同じぐらいなら皆さんもきっと日本の製品を選ぶでしょう。

今になって私たちは中国に帰って生活することもできないので、中国においても日本においても認められていないというとても複雑な気持ちで、心理的にも限界を感じる時があります。これが私たちの現状であり現実であります。皆さん、どのように考えていますか。(帰国者2世 石垣 深波絵)

■■■ グループホーム・小規模多機能型居宅介護ハナ ■■■

◆ご利用者様と沖縄旅行

5月29日(金)から31日(日)の3日間、グループホームご利用者で82歳のSさんと山根施設長と私で、沖縄旅行へ行ってきました。

宮古島で漁師をされていたSさんは、21歳の時に集団就職のために神戸に来られました。今回思い出の地、宮古島へ行こうと考えたのですが、この時期は神戸空港から宮古島への直行便はなく、同じような雰囲気の間を渡る沖縄に変更しました。

1日目は神戸空港から那覇市内のホテルへの移動のみでした。到着後、ホテルで沖縄そばやフーチバー（よもぎ）チャーハンなどの沖縄料理づくしの夕食をとり、「沖縄そばの出汁がおいしい」と、懐かしい味ということもあってか、いつもよりたくさん召し上がられました。その後、入浴し、ベッドに入られたものの、初めての飛行機、初めてのリゾートホテルに興奮気味で、この日はなかなか寝付かれませんでした。

2日目は、タクシーをチャーターして、沖縄観光をしました。出かけようとエレベーターに乗り込むと、そこにはなんと沖縄の英雄である具志堅用高さんが。具志堅さんは快く写真に応じてくださり、Sさんは握手もしていただき大変嬉しそうでした。

タクシーは高齢者が同乗するというのでゆっくり運転していただき、2カ所のみ観光しました。1カ所目の首里城では、沖縄民謡と踊りを熱心に見られていました。その後、昼食をとり、国際通りでお土産を買ってホテルに戻りました。夕食は、山根施設長のご友人のおすすめの店でご友人も同席される中、ミヌダル（豚肉の黒ゴマだれ蒸し）や「の一字饅頭」などまた沖縄料理をいただきました。「の一字饅頭」は粒あんを入れ月桃（サンニン）の葉で包んで蒸し、仕上げに食紅で「の」の字を書いた、お祝い事などで食べられるまんじゅうで、Sさんも「お腹いっぱい食べられない」とおっしゃられながらも4分の1を美味しく召し上がられました。

旅行前のSさんは座位が取れる時間が食事時間を合わせても2時間ぐらいで、それ以外はほとんどベッドで寝ておられました。そのため神戸空港まで行き、飛行機に乗ってという旅行が可能なのかという不安もありましたが、2週間ぐらい前からの歩行時間を増やす等の体力づくりのおかげか、旅行中もお元気でお過ごしいただき、戻ってからは以前よりお元気にられました。（志岐 良子）

■■■ ハナの会 ■■■

◆ごらくスクワット

ハナの会に入社してから早いもので10ヶ月経ちます。私はデイサービスという職場が初めてで、又利用者に在日の方が多く、最初は言葉を聞いて何を言われたかほとんど分からず、どぎまぎした事を覚えています。挨拶でハグすること、日本人ならあまりしないことを普通にハルモニたちとできるようになり、歌や話を通してハルモニ、ハラボジたちと距離が縮まったと思います。私自身も少しですがいろんな言葉も覚えて楽しいです。

月一回第4金曜日の午後にボランティアで来てくださっている整体師の鄭(ちゃん)信義(しに)先生について書きます。33歳のイケメンでハルモニたちと楽しい会話ができ、明るく大人気の先生です。つい最近では「スマホがあらゆる不調引き起こす」という本を出版され話題になり、テレビ雑誌などメディアからも引っ張りだこです。そこで教わったごらくスクワットは、座る→お尻を浮かす→座るといった簡単な動作を15回から30回するこれだけです。利用者と食前の健口体操と一緒に続けています。

足の筋力が衰えているため最初は結構きつかったですが、自宅でも何人かは続けてくれて平均で30回は出来るようになってきました。一人の人は整体師から筋力がついたと言われて、ますます喜んでいきます。それぞれ個人の体力は違いますので、無理の無いように行っています。私自身も2ヶ月やってみて、最初はかなりきつかったですが、今は楽に出来るようになりました。

健康維持体力低下防止の為に食前のスクワットをハルモニやハラボジと続けて行きます。私はダイエット兼ねて頑張ります。（竹宮 章子）

■■■ 今後の予定 ■■■

■「多文化共生」を考える研修会2015

8月19日(水)、21日(金)、26日(水)

13:30～16:45 国際健康開発センター3F会議室1

8月28日(金)

13:30～16:45 海外移住と文化の交流センターほか

■日本語プロジェクト研修会

7月29日(水) 夏パーティー

■KFC新長田交流会

7月14日(火) 料理交流会

7月21日(火) 映画鑑賞

■神戸市生活困窮者学習支援事業

7月24日(金)～8月31日(月)

■外国にルーツを持つ子どもの学習支援事業

7月24日(金)、8月24日(月)

農園&バーベキュー

8月20日(木) 夏休みの工作づくり